

研究室配属を終えて

学籍番号

整理番号

三週間の研究室配属は私にとって、とても刺激的なものでした。高校時代には研究職に憧れていたこともあって、研究室配属をとても楽しみにしていました。もともと、実験をすることが好きで、今回の配属でたくさんの実験をさせていただき、とても充実した時間を送ることができました。自分で手を動かして、いろいろな器具を使って、実験を進めていくことはとても楽しく、その結果、様々な現象が起こるといふ単純なようで複雑なことは興味深く、素直に感動することばかりでした。今回、ドクターヘリに魅力を感じて希望していた救急救命科の研究室に行けなかったものの、自らたくさんの実験ができる桑迫先生の研究室を第二に希望していたのも正解だったと思います。

一番最初の実験は細胞を培地に移すことでしたが、今まで使ったことのない実験器具がたくさん出てきました。実験器具というのは、実験を円滑に進めるためにとても重要で一つ一つに特徴があり、大きさや形状によって使い分けることの重要性を再確認しました。液を分注する作業一つとっても、その目的に合わせて違った器具を使い、それぞれに意味があって、これまでのたくさんの研究者の知恵を身近に感じることができました。私の感じる実験の魅力の一つに器具の多様性があります。実験を行うための実験器具一つ一つに価値があり、その器具一つにさえもたくさんのひらめきが注ぎ込まれているということを感じることができ、実験はたくさんの人の努力と知恵の結晶だと思います。今回、**Ligation**やプラスミドの精製の際に実験キットを使いましたが、これも同じことで作業としては混ぜるだけという簡単な作業で、その液の及ぼす反応というのは言葉にしてしまえば、DNAが切断したり、伸長したりと簡単そうに聞こえますが普段の生活では信じられないようなことをやってのけるというのも、よくよく考えれば信じられないことだと思います。実験をしながら現代の科学技術の発達に感動していました。その反面、今の技術というのは何でもできてしまうので慎重に扱わなければならないものだと感動と同時に恐怖も感じました。

今回の配属では、以前先生のされていた実験を行うものでしたが、実際の研究職というのは自分で疑問に思ったことを自分で実験方法を考えて行うもので、日頃からいろいろなことに関心を持っていなければならないなと思いました。しかし、これは研究者に限られたことではなく、臨床医として働くとしても必要なことだと思います。患者さんはどんな症状を持って病院に来たのか、なぜその症状が起こるのか、それを治療する方法は何なのか、と考えることは研究者として自分の実験を組み立てていくことと似ていると思います。研究医も臨床医も患者さんの病気を治すという根本的な目的は同じであり、広い視野を持って向き合うことは大切なことで、今回の実習で実験することの楽しさはもちろん、いろいろなことに興味を持つことの大切さを学ぶことができました。

最後になりましたが、お忙しい中たくさんの実験をさせていただき、同時にたくさんの